

熊野を楽しむ達人の会 第26回例会

『木は語る』

～あふれる生命力の不思議～

- ・実施日：平成19年12月8日
- ・場所：熊野市飛鳥町小又
- ・参加者：10名（男性7名、女性3名）
名古屋市、多気町、津市、熊野市、紀宝町、古座川町、串本町
- ・ガイド：鈴木祥嗣氏

今回の例会は熊野の山や木を愛する林業家の鈴木祥嗣さんが出会った生命力に満ち溢れた木に会いに行き、木の不思議さを感じながら鈴木さんと共に過ごしてみようというものです。

この日の朝の気温は0℃。吐く息も白い、寒さのなか各自が車に乗り飛鳥町小又へ移動し最初の木を見に行きました。



小又川の岸に生えている杉は一方向に根を張っており、弓なりに反って生えています。鈴木さんはおそらく400～500年はたっているだろうとのことでした。

この木の根は山の斜面を這い上るように伸ばしています。その



根は削られて階段状になっており人が通るために使われている様です。しかしこれだけ太い根にダメージ受けながらも枝の勢いを見る限りでは、不安定な環境でも悠然と構えて生きている様子は圧倒されるものがありました。

鈴木さんの話を伺いながら川に下り、根と幹の境がよく分からないまま一番太いところを測ったら約7.8mありました。

2番目の木は山林仕事に使う鎌を祀った鎌地蔵と乳を授けてくれるという乳地蔵が祀られている場所にある杉を見に行きました。この木の片側は洞になっています。洞の中で石を抱え込んでおり中に小さな祠が祀られています。虫がつかないように火を焚いた後もありました。



この木も 400~500 年はたっていると思われるとのことでした。この木の幹は約 6.4 mありました。

3 番目の木は欂です。この木は川岸に生えています。太さから言うとまだ巨木とはいえませんが、鈴木さんが始めてみたとき「何を考えとんのや？」と不思議に思ったそうです。



この欂の根は一本だけほとんどの部分が地面の上に出ています。同じ太さでほぼ真っ直ぐに根を伸ばしているためパイプのように見えます。鈴木さんは「この木を見ていると、楽しんで根を伸ばし続けているような気がする。」とおっしゃっていました。



実際に見てみると本当にそんな風を感じに取れました。根の長さを測って見たら約 30m ありました。途中から土に埋もれてしまっていますが、どこまでどうなっているのか皆見たかったようです。

林道を移動しながら、鈴木さんは杉は 150 種類程あることを話してくれました。ちょうどそこに 3 種類の杉が植えられており、よく見ると葉のつき方、幹の伸び方が違います。このことを知っただけで変化のない植林の森歩きが楽しく変わりました。



4 番目の木は岩盤の上に生えている杉です。岩に張り付く様に 4 本の太い根を四方に伸ばしています。鈴木さんがこの木を見ているとき、たまたま風の強い日だったそうで、地面がゆれたため一瞬地震？と思ったそうですが、この木が風に揺らされていたそうです。この木も 400~500 年はたっていると思われる鈴木さんはおっしゃっていました。厳しい環境の中で長い年月を生き続けている生命力の強さをひしひしとを感じる木でした。





5本目の木も杉でした。皮を剥ぎ、巻き枯らしをさせようとしたところ、その上の部分から根を下ろし、人が手を入れるたびに抵抗するように新しく枝や根を出すので、段々と奇怪な形になっていったそうです。この木を始めてみたとき一瞬ギョッとしてしまい木が何かを訴え続けていると感じました。



鈴木さんは、この木がパニック状態になり枝を伸ばしていいのか、根を伸ばしていいのか分からなくなり、生きていくために力を振り絞り頑張った結果こうなったのかも知れないとおっしゃっていました。

この後、この近くにある2本の杉を見ましたが、どちらも異様な形になっていました。

鈴木さんは今日見たこれらの木は材木としての価値はないが、一本の木としてみたとき参加者からは、「木が困難に打ち勝ってたくましく生きているのが良く分かった。木を見習って頑張って生きていこうと思います。」「鈴木さんのお話に引き込まれて楽しく一日を過ごしました。」などの感想をいただきました。

最後に鈴木さんは「最初は木のことは何も分からない、2つ目は杉や檜がわかるようになる、3つ目は悪い木がわかるようになる、4つ目は良い木がわかるようになる、そして5つ目は結局何も分からなくなる。」と。林業家の家に生まれ、木に関わる環境からはなれることが無かったこと、結局木が好きなんですよ。とおっしゃり今回の例会を無事終えることができました。

(以上)